第6次塩竈市長期総合計画進捗報告会 議事録

1 日時・場所

令和6年7月27日（土）10:00～12:00 於 塩竈市魚市場 中央棟2階 大会議室

2 出席者

長期総合計画策定時の審議委員（4名）、一般（2名）、市議会議員（8名）、市長、副市長、教育長、部長、政策調整管理監（11名） 【計25名】

3 概要

「しおがま未来創生プロジェクト」、「塩竈らしい100の暮らし」、「第6次長期総合計画成果指標」の進捗状況について説明。

その後、各部主要事業の取組状況等を報告し、1件ごとに評価者から意見をいただいた。報告会后、各事業の取組を5点満点で採点いただいた。

○ 採点結果

◆ 平均点数 3.6

◆ 詳細は別紙1、2を参照。

4 委員との意見交換内容

（1）「分野1 子どもたちの笑い声があふれるまち」

報告No.1（塩竈市就学前教育・保育施設整備等補助事業）について

（渡辺様）

4月から開園した保育園について、特徴的な効果は現れているか。

→（福祉子ども未来部長）

開園からまだ4ヵ月のため、効果はこれからである。

（渡辺様）

NOVAバイリンガル塩竈後楽保育園では、実際に英会話は行われているのか。

→（福祉子ども未来部長）

外国人スタッフもおり、英会話をカリキュラムに含めた保育を行っている。

（渡辺様）

やまつき保育園の「体調不良児対応型」というのは具体的にどのようなものか。

→（福祉子ども未来部長）

専門の設備を構え、慢性疾患のある子どもでも受入できる体制を整えているもの。

→（渡辺様）

希望すれば入所できるのか。

→（福祉子ども未来部長）

病気や症状について内容を聞き、受け入れられるかどうか判断をもらいながら手続きを進めている。

(柳井様)

2点質問させていただく。共働き世代も増え、仙台に通勤される方も多いと思う。通常、保育園の立地は駅前近接などアクセシビリティの問題も考えられるが、そのような利便性など質の保証についてどのように考えられているのか。もう1点として、岡山県総社市では接続教育に着目し、幼稚園から英語学習を組み込み、全体の教育の底上げに繋げているそういった接続性を考慮しNOVAを呼んだのか、あるいは今後そういった点を考えているのか。

→ (福祉子ども未来部長)

1点目について、お預けする保護者の勤務地や居住地区により希望される保育園のエリアが限定される。車での通勤が多い傾向もあり、駅前だけでなく通勤経路上の保育園を希望されている。そのため、利便性については、申請段階で話を聞き適した場所とマッチングできるよう対応しているがそのマッチングが難しい状況にある。2点目の接続教育について、幼保小連携に関し宮城県は遅れているという話もあるが、その点については今後より一層連携を強められるよう取り組みたい。

(柳井様)

車で通勤されている方もいるが、大量輸送機関と関連付けた考えを持つと駅前が利便性に優れる場所となるので、そのあたりをリサーチし引き続き取り組んでいただきたい。

後者に関しては、教育のクオリティが上がるとそこに住みたいという人が増える。特に幼稚園保育園に関しては体力づくりや知的教育に注力しているところを保護者が意識し、引っ越すという事例が東京圏からかなり事例が出ており、先ほどの総社市も人口が増加している。戦略性を持たせ、全体マップとして大きな絵を描き、そこにNOVAを位置付けるといった対応を考えてほしい。そうすると強かな塩竈市に変わっていく。英語教育等しっかりとやり込むと人を呼び込める。せっかく開園できたので有意義に活用してほしい。

(阿部様)

2点伺いたい。待機児童が0になったという点は素晴らしいと思うが、今後のサービス面、例えばおむつの定額制など人気のサービスがあるが、そのような質を上げる取組について今後どのような予定があるか。もう1点は、待機児童0といった良い点についてのアピールができていない印象がある。例えば保育園の預かり人数にゆとりがあり、すぐに入園できるといった状況は周知できないのか、または市内に保育所がどれくらいあって、何人受け入れ可能かといった案内等があれば便利かと思うがどのように考えているか。

→ (福祉子ども未来部長)

まず1点目、保育のサービス面や質という点では、今後例えば病気のパターンだけではなく、障害を持った子どもの受け入れ体制強化や、定額制おむつに限らず特色あるサービスを各保育所保育園で考えていきたいと思う。

2点目の入所受入情報の公表については、在席している保育士の数や預かっているお子さんの数により受入可能人数が変わるため案内の仕方については難しいところもあるが、特色など含めて積極的に示し、より安心して預けられる環境を整備していきたい。

(2)「分野4 活気があり、誇りをもって働いている人がたくさんいるまち」について 報告 No. 2 (門前町活性化事業) について

(佐々木様)

ほこみちの指定に向けて、ワークショップでも全員がやりたいという意見だった。先ほど全線指定するという話であったが、例えば仙台市の定禅寺通りであっても2カ所である。そのことからできる所からやっていくという議論もあったと思うので、実施できる所から指定していくというやり方でいいのではないかと。

→ (産業建設部長)

昨年度の取り組みを通じ、全線指定については様々な課題が浮き彫りになったため、できる所からと考えている。今ターゲットとしているのは太田與八郎商店と丹六園の前、あとは四方敷公園あたりについても検討している。県道については県や公安との協議が必要となるが、こちらについては10月のイベント後に本格的な協議を行い、部分的にほこみち指定を目指していきたい。

→ (佐々木様)

できる所から実現していかないと地域の皆さんもついてきてくれない。来年の進捗報告会では、取り組んだ結果の報告となるよう覚悟を持ってほしい。

全体的な話として、私も門前町ミーティングを楽しみに参加したが、地域の方々から最初に受けた話は、このような話し合う場は何回もあったがまた無駄な時間になるのではないかとということだった。話し合いを始めたものの、突然方向が変わり立切れになってきた経験があるようだった。そういったことは繰り返してはいけないと思う。地域の皆さんに伝えたのはワークショップや話し合いは続けていかなければ市との合意形成がとれないため、人数が少なくとも継続すべきということだった。ぜひ今後は私も協力するので例え参加者が0人になったとしても続けていただきたい。

もう1点として、データはしっかり取るべきである。昨年度は学生を派遣し、データを取ってもらった。ぜひ収集したデータは無駄にしないでほしい。学生も今の塩竈市は面白いと感じ、浦戸諸島でも企画し繋がりが生まれている。こういったものを生かしていただきたい。

今は観光のデータ化も進みDMP(データマネジメントプラットフォーム)がトレンドとなっている。特に東北地方が進んでおり、東北観光推進機構が集計しているあるデータでは塩竈市が東北のトップ10に入っているものもあり、塩竈市には勝ち目があると思って関わっている。まずは3年間しっかりと取り組み、今年度はほこみち指定を進め、地域の期待に応えてほしい。

(渡辺様)

事業の意義はよく理解したが、それに対し事業費は少ないように思う。今後の拡大策、継続策等、展望を聞かせてほしい。

→ (産業建設部長)

昨年度は試行的な取組ということでこの規模だった。今後は実施回数や取組内容を増やすとともに、地域の皆さんの考えを事業に反映して実績に結び付けたい。

(市長)

我々の子ども時代は本町の通りに全てが揃っており、祭りやイベントも開催されていた。当初、本町通りをほこみち指定したかったが警察等との協議によりうまく進められずにいた。若い方向けにアピールする部分と年配の方向けにアピールする部分をよく考え、ほこみち制度を生かし、提案いただいた方向で取り組ませていただく。

(柳井様)

門前町というのは重要な資産資源になるため原風景を守ることが大事になる。例えば江戸時代に塩竈の門前町はどうだったのかということを見ると、それが全て宝に繋がる。観光地作りをせず目的地作りをしてほしい。単純にアンケートで求められたものを作ると非常にクオリティが低い地域開発になってしまう。しっかり品格を保つと、原風景に戻っていく。

そのような意識を持ち、目的地作りを行うことが重要である。

(3) 「分野6 日常に彩りがあるまち」について

報告 No.3 (アートプロジェクト事業) について

(佐々木様)

アートというのは塩竈市にとってすごく武器になる。宮城県内各地に足を運ぶが、塩竈市はアート分野で1番ではないかと思う。説明があったとおり小学校から始めていき、総合的にどのように進めていくか考えながらいくとよいと思う。

(渡辺様)

「1日限りの水族館」は参加者350人とのことだが、どこかの小学校を対象としたのではなく、広く声掛けしたのか。

→ (教育部長)

各小学校の仲良しクラブや保育園、幼稚園には声掛けした。もちろん強制参加ではなかったが、当日は通りすがりの親子なども参加し大変盛り上がった。

(柳井様)

こういった事業を考える際の思考法として、仮説思考を用いるが、市職員は予算についても考えなければならないため、仕方ないと思う一方もったいないと感じることもある。アートというのはものすごく良い切り口になる。やがては観光に結び付けることもでき、さらには子ども達のアイデンティティの確立にも繋がる。30年50年戦略として考えるのであれば、参加した子ども達が大人になった

とき、このアート事業はどういた力を持っていたかということの評価していただくというような、長期的かつ多様な埋め込みを行ってほしい。そういった目論見があれば、アートの意味も変わってくる。ぜひアートをきっかけとした地域への愛着、誇りの醸成に繋がることを裏のテーマとして仕込み、実施してほしい。予算だけ費やし一過性の事業として終わらせない工夫を行ってほしい。

→ (教育部長)

単発の事業になってしまう傾向があるため、市の施策として10年20年30年後にアートの力がどういう影響を及ぼすのかを考え工夫したい。

→ (市長)

きっかけは令和3年度に行った第二小学校の壁画アートだった。老朽化した昇降口から毎朝登校する子ども達を不憫に思い、直すべきだということから始まった。そこから塩竈市出身のアーティストに協力いただき、その延長として仲卸市場正面玄関の壁画制作にも繋がった。柳井先生が先ほどおっしゃった裏のテーマに関すると、壁画制作の際に手伝ってもらっていた塩釜高校の生徒や中学生の中にコミュニケーションが苦手な生徒がいたが、描いている間にコミュニケーションが取れたという報告があった。市として意図せずとも、副次的効果が生まれることもあるということに気付かされた。市役所は単年主義で考えるので、その点についても先生のご指摘を今後に生かしていきたい。

(4) 「分野7 みんなが主役になれるまち」について

報告 No. 4 (国際交流事業) について

(佐々木様)

何か目を引くようなタイトルをつけたほうがいいのか。実際は躍動感のあるプログラムだと思うが資料の説明や写真だけ見ると何をやっているのか見えてこない。ネーミングも大人がするのではなく、生徒たちに考えさせるなどして、この事業の魅力が伝わるよう工夫されたほうがよいのではないかな。

→ (総務部長)

何かワクワクするようなネーミングを考えてみたい。令和6年度も韓国の訪問とし、今後選考も始まる。選ばれた子ども達で相談しながら進めていきたい。

(柳井様)

写真を見ると集合写真が多くフォーマルなやり方である。海外は個人でも簡単に行ける時代となったため、名所訪問だけでなく、例えば現地のまちづくりを学ぶなどフォーマルなやり方を崩してはどうか。現地の人とディスカッションし深いコミュニケーションを図ることで、日本に対する正直な思いや塩竈に行ったことあるといった話にもなり、コミュニケーションの本当のすごさを感じるに違いない。学生は心への刺さり方が全然違うため、もう少し差し込むような研修を考えるべき。

もう一点、繰り返し伝えている戦略性の視点でいくと、研修に参加した生徒たちがやがて大学生、社会人となったとき塩竈市に残ってくれるのが課題となる。地元のことは頭に残るだろうが、優秀な人ほど東京あるいは海外に行ってい

まう。こういった事業をするなら最後には塩竈市に残ってくれる、または戻ってきてくれるように塩竈市に対する未練を持たせる。地元が塩竈でよかったと思わせる。そこをうまく捉え戦略化してもらいたい。

(阿部様)

研修先を韓国にした理由は何か。

→ (総務部長)

まず移動距離の関係で、アジア圏に絞って検討していた。ベトナム、台湾も候補にあったが、仙台にある駐仙台大韓民国総領事館との繋がりが安全面で安心でき、また様々手配いただける環境があった。さらに、研修では地元の中学生と交流をさせたいと考えていたが、韓国以外はその実現が難しく韓国を選んだ。

→ (阿部様)

個人的な意見として、韓国は日本に対する印象に波があるように思う。良くない時期に当たってしまうと、中学生世代は恐怖心を持ってしまうのではないか。グローバルリスクがない国を考えるのもいいのではないか。

→ (市長)

難しい問題であるが、グローバルリスクはどの国にもあると考える。そのうえで韓国としたのは、万が一のことがあった際、駐仙台大韓民国総領事館を通じて韓国外務省と連携がとれやすいであろうと、また在大韓民国日本国大使館には以前宮城県に出向していた一等書記官もおり、私のこともご存じであり心強かった。さらに、仙台韓国教育院の院長からは、交流先として以前所属していた中学校の推薦もあり、交流実現のための橋渡しもしていただいた。そのような背景もあったため、近くて遠い国と言われる韓国であるが、現地での感じ方含め勉強になるのではと思った。リスクは承知であったが、駐仙台大韓民国総領事館はじめ皆様全面的に応援してくださり韓国を選んだ。

寄附を下さったカメイからは、ベトナムであれば海外支店もあるので協力できるというありがたい提案もあった。今後韓国での研修を継続して続けるためには拠点となる友好都市を見つけたいと思っている。受け入れてくれるまちがあると、毎年行き来することができ、友好を続けるということに繋がる。将来的に韓国に限らず他国とも交流ができれば、子ども達がそれぞれ国を選び訪ねるという面白いやり方にも繋がるかもしれない。まずはそのための一歩として韓国を選んだ、というように理解していただければと思う。

(8) 「分野8 自然と調和した 和やかな暮らしと癒しがあるしま」について 報告 No. 5 (浦戸再生プロジェクト推進事業) について

(渡辺様)

新しい地域おこし協力隊2名は女性か。また個別に志願されたのか。

→ (市民生活部長)

その通りである。

→ (渡辺様)

移住されているのか。またその居住地は寒風沢か。

→ (市民生活部長)

地域おこし協力隊の2名は寒風沢に住んでいるが、隊員期間中の居住のため移住という扱いではない。すでに卒隊された男性の元地域おこし協力隊は島に移住しており、漁業を続けている。

(渡辺様)

2名の女性は漁業などの仕事を行っているのか。

→ (市民生活部長)

島内から情報発信や、島に来た観光客の案内、イベント企画など行っている。

(阿部様)

今年菜の花まつりに行った。塩竈市のLINEやポスターではとても魅力的に見えたが、実際に行ってみると特に何か食べられるわけでもなく、期待ほどではなかった。市外の方もいたようだったが、すぐに帰る方もいた。PRが立派でも会場が伴わないと思うこともあったが、地域住民が主体だったのか、それとも市役所も関わっていたのか。

→ (市民生活部長)

菜の花まつりは、浦戸振興課主催で行った。地域の方々から協力を得て、初日と2日目については野々島でリヤカーを使った物販や、地域おこし協力隊の2名によるプチコンサートを行った。3日目は海水浴場でキッチンリヤカーを出すなどそれぞれ考案し実施した。企画の一部は島民の方が主体となるものもあったが、エリアを広げることが難しく、そういった点で訪れた方が満足されなかったこともあったのかと思う。今年の反省を生かして来年はより喜んでいただける企画としたい。

(柳井様)

以前、島で農業をされていた方はどうなったか。

→ (市民生活部長)

現在も農業を継続している。

→ (柳井様)

彼はキーパーソンだと思っていた。島の振興というとなんか制約があるため手が付けられないという話が総合計画策定時にもあり、大変そうな印象があった。彼のような方を中心にして関係を広げていくという考え方もある。その上で、地域おこし協力隊はもう少し人数が多い方が理想であると思う。5人を超えるとイノベーションが起きてくるので、ぜひ増やすことをお願いしたい。また、VENTURE FOR JAPANの小松陽介さんのような地域振興で活躍されている方をメンターに据えて伴走支援型でイノベーションを加速してほしい。そういった取組を進めると全体が繋がってくる。また島づくりは稼ぐだけでなく、明るく楽しく進めていくと、違った切り口が見えてくる。そのときメンターとどうするか、が非常に大事となる。

参考事例として鹿児島県川内市の甌島がある。そこに山下賢太さんという方がいる。彼らは島という簡単には名物が作れない環境の中で、居酒屋のメニューを作っ

ている。また、豆腐屋を始め豆腐のジャムも作っている。そういったイノベーションが伴走支援型のメンターがいることで可能になってくる。浦戸諸島は戦略性を持つことで、本当に明るい島になっていくのではないかと思う。

(市長)

地域おこし協力隊の二人にはそれぞれ飲食店を開きたいという夢と、シンガーソングライターという夢がある。男性の元地域おこし協力隊員もキーパーソンになると思っている。煮詰まっていないが東京のIT系の企業と市内の子ども達を結び付けた事業展開の構想も考えている。ゆくゆくは他の自治体にも波及する動きも考えているので、柳井先生がおっしゃった取り組みをまずは考え、繋げていきたい。

また、地域おこし協力隊の夢を叶えることも市役所の責任だと思っている。彼女たちの夢を繋げ、その上で相乗効果としてお互いが成長できるようなことをコンセプトとして浦戸の振興を図りたい。時間が限られていることは承知しているが、丁寧に取り組んでいきたい。

5 総括

(柳井様)

全体のマップを作り、ここでずっと住み続けられるという点にこだわって、計画全体が連動して動いていくような仕組みづくりを考えてほしい。

(佐々木様)

ハード面ではなくソフトの面でアイデアを出し乗り越えていく発想が求められる。都市の縮小をどう乗り越えていくか行政が考えなければならない。総合計画プラスアルファが重要。地域を巻き込んで計画を進めることを目指してほしい。

(渡辺様)

塩竈市は量より質のまちだと思う。まちづくり力は世代を超えて引き継いでいると感じる。様々取り込まれているので、市として継続、拡張し盛り上げられるよう頑張してほしい。

(阿部様)

計画が始まり2年が過ぎた。コロナの脅威もある程度落ち着いてきたところ、事業を継続することで芽が出るものがありワクワクしている。引き続き、計画推進に向け頑張っていたきたい。

6 その他（公共施設建て替えに関する意見）

(柳井様)

アイデアとして4点紹介させていただく。都市スケールにフィットするかの問題もあるのであくまで参考としてお伝えする。

1点目は、部分最適と全体最適の考え方である。ドイツのデュッセルドルフでは電車が24時間走っている。電車事業は赤字だが、24時間運行することにより観光客がお金を落とすとータルで黒字化となる。赤字を少しでも減らすため再エネ等組み合わせるなど部分最適の概念を卒業し、全体最適で地域のマネジメントを考えてみてはどうか。

2点目が公共施設プラスアルファということ。日本ではごみを燃やして生じるエネルギーを温水プールに活用するという例がある。デンマークではスキー場を作っている。日本の場合、儲からないところに儲からない施設を作る傾向があるが、儲からないところで儲かる施設をつなげプラスにするという方法もある。

3点目は、そろそろ広域行政を考える時期に来ている。例えば塩竈市を拠点に周辺を巻き込み合同庁舎を作るなど。もちろん国や県との折衝もあるが、将来的な合併なども念頭に合同庁舎形式という考え方もある。

最後の4点目はごみ処理について、徳島県上勝町の事例を紹介する。上勝町では大体13種類45分別を行っている。人口は1,300人程の町だが、古新聞や鉄を集めると、年間約200万円近いお金に変わる。ゴミを分類することにより資源に価値が生まれる。さらに家で不要になったお皿を交換し、そこにポイントを付け町民にもメリットを作るなどして徹底的に資源化を行う。ホテルに使う食器なども全て廃品回収を行う。上勝町のやり方をどう塩竈市に組み込んでいくかは議論が必要だが、そこまで徹底的にやり込んでいくと違う世界が見えると同時に、お金が生まれる。そのような塩竈モデルとなるイノベーションを考えてみてはどうか。

(佐々木様)

お金に変えていく考えは必要だと思う。難しいからこそできることもあると思うので徹底して考えてほしい。不安になることもあると思うが、弱気にならず強気で続けられれば良いアイデアが生まれる。塩竈市はコンパクトなため、ないものもあるがなければ何があるのかを徹底して考える時期ではないかと思う。

(市長)

海士町に視察に行った際、ないものはない、をスローガンとしていた。その中においても、若い人が移住し20年前の人口を維持している。移住者のモチベーションは高く、皆強い想いを持って暮らしている。

塩竈においても、地域おこし協力隊を始め外部から塩竈のために働いてくれている方がいる。そのような方々に対し市としてどのように受け止めるか。ひとつのきっかけを大きな果実とするためにはさらなる成長が必要と思う。目の前のことを一つ一つ丁寧に、一生懸命取り組むので引き続きお力添えいただきたい。